

【巻頭言】

新年のご挨拶

学友会会長 錦 成郎(54 回生)



新年あけましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。昨年は元日に発生した能登半島地震によって多くの方が被災されました。ここに心よりお見舞い申し上げます。自然災害の恐ろしさを改めて思い知らされると共に一日も早い復興を願うばかりです。このような災害が起こるたびに迅速かつ継続的な手厚い支援が重要であることを思い知らされるばかりで無力感が募ります。学友会では被災地域近隣にお住まいの学友を通して安否確認を行う程度のことしかできませんが、少しでも早く普通の日常を取り戻されることを祈念しています。

さて、新型コロナウイルスによって社会活動の自粛を余儀なくされた影響で、学友会も人が集まる活動を自粛、理事会も Web 開催に切り替え何とか乗り切ることができました。この時の経験を生かして、就職懇談会では来学できない相談員と在学学生を Web でつなぎ、お互いの顔をみながら相談に応じるなど双方向の連携ツールとして活用しています。ここまで Web 会議システムが浸透したのはコロナ禍での自粛生活における工夫の賜物と感謝しています。また、学友会理事会では今年度から支部長に声掛けし、理事会に Web で参加していただく取り組みを始めました。幅広い年齢層の学友会組織を運営するためには、多様性をいかに取り入れるかが「カギ」となると考えています。毎回ではありませんが、支部長にオブザーバー(陪席人)として理事会に出席いただき、理事会の雰囲気を感じてもらいながら、母校の発展や学友会の活性化につながるアイデアを頂戴できればうれしく思います。今回は4名の参加でしたが今後も年間1回のペースで継続していきたいと考えています。多くのご意見を生かして時代に即した組織の基盤づくりを行いながら、運営方法を含めリフレッシュし続けることが、会員に身近な学友会に近づく術であると考えていますので、皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、これからも診療放射線技師を取り巻く環境は深化し、タスクシフト・タスクシェアの流れに沿って、役割(責任範囲)は拡大され、他職種との情報や技術の共有によりチーム医療体制は強化されていくでしょうが、我々の使命は放射線の専門家としての専門性を磨くことに他ありません。これをなくして真にチーム医療に貢献することはできないことを強く認識するべきだと思います。既に医療機器のコアな部分には AI が組み込まれ、多彩な最新技術が備わって自動化が進むと予測されています。このような時代であるからこそ、思考力を研ぎ澄まして人間力を磨くことが必要とされるように思います。

最後になりましたが、学友会の皆様のご健康とご活躍を祈念して筆を置きます。今年が皆様にとって良き一年でありますようご祈念申し上げます。



以上